

令和5年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

牧草を最大限に利用し外部依存度の低下を追求した低投入型放牧酪農

○氏名又は名称 丸藤 英介・丸藤 紗織

○所在地 北海道中川郡中川町

○出品財 技術・ほ場（永年牧草）

○受賞理由

・地域の概要

中川町は、北海道の北部に位置し、山岳部を除く平地は一部の泥炭地を除いて肥沃であり、畑作、畜産、林業を主な産業とする自然豊かな町である。中川町の農業産出額は、令和3年度で13億6千万円であり、うち畜産は69.8%の9億5千万円であり、乳用牛が8億9千万円（生乳7億6千万円）とその大半をしめている酪農が盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

丸藤氏は平成12年に北海道へ移住後、平成20年に中川町の離農酪農家跡へ新規就農した。現在は乳牛70頭の家族経営で、成牛42頭は放牧を中心に濃厚飼料給与量を極力抑えた飼養体系であり、飼料TDN自給率80%を達成している。

・受賞者の特色

（1）積極的な草地改良による牧草の高品質化

ローインプットで利益を確保するため、牛の主食となる草の高品質化を目指し草地改良に力を入れている。所有する草地の土壌条件が悪く生産性が低いため、耕起による更新、暗渠の整備、追播による簡易更新を行い、放牧用草地、採草地、放牧・採草兼用地の植生改善をデータに基づき積極的に進めている。

（2）外部依存度の低下による持続性の高い酪農経営

年間を通じて牧草からの乳生産量を最大にするため、早生、中生、晩性を計画的に作付け、適期で収穫している。播種量を増やすことで雑草の抑制や牧草の死滅を低減している。放牧地および兼用地では除草剤や化学肥料の使用を中止して有機的管理に移行し、令和6年度の有機JAS認証（飼料）の取得を目指している。

（3）女性の活躍

夫妻は家族経営協定を結んでおり、英介氏は草地・飼養管理、紗織氏は搾乳作業という分業体制としている。紗織氏が担当しているのは時間の決まった朝・夕の搾乳のみであるが、投資など重要な判断を伴う決定は夫婦で相談し行っている。

・普及性と今後の発展方向

英介氏は新規就農委員を務め、研修生受入や就農後フォローも積極的に行う地域のリーダーであり、生態系調和と持続性重視の経営姿勢は、これからの酪農経営の1つの展開方向を示している。また、牧草新品種の導入、牧草由来乳生産量の増大、農薬・化学肥料の使用中止など、飼料価格高騰下において外部依存度を低減した持続的な酪農経営モデルを提示している。